

# まちと呼応する 加治木のすべての人のための庁舎

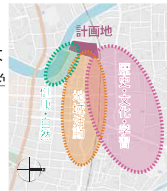
## 1.各課題に対する基本的な考え方

「豊かなまちの魅力をそのまま活かし、地域とそこに住まうすべての人のための庁舎を目指します」

加治木は、島津義弘公が治め、晩年を生きたとする歴史の由緒ある地であり、現在も誇るべき文化や伝統が多数残されています。新庁舎は加治木の誇るべき歴史・文化をベースに、健康的で街に潤いと賑わいを提供できる庁舎を追求します。

### ① まちの成り立ち

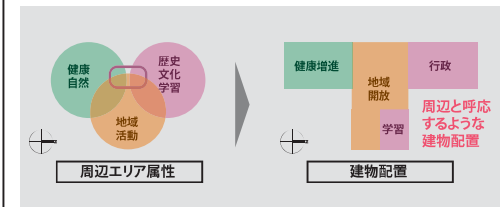
計画地は、メインのアクセス経路となる東側道路を中心に①歴史・文化・学習、②地域活動、③健康・自然の3つのエリアに面しており、都市機能のターミナルとなる特性を持っています。



△周辺エリア属性

### ② まちと呼応する

新庁舎は、それぞれのエリアに呼応した施設機能を効果的に配し、各機能の相乗効果により、まちを一層豊かにする庁舎とします。加治木の持つ多様な価値をつなぎ、市民が集まるにぎわいの中心を作ることで、新しい加治木のまちづくりの拠点となる庁舎を提案します。



△建物配置構成

## 2.設計を進める上で特に重視する設計上の配慮事項

「徹底した調査でエビデンスに基づいた提案を行います」

①既存施設調査(PDCA調査):既存庁舎の使われ方を調査・ヒアリングした上で改善点を提案します。

②類似施設調査:類似施設の資料収集・視察等を行い施設の理解を深めました。(出水市野田・高尾野支所を視察)

③現地調査:建設地を視察し、地理的特徴や文化・歴史等についても調査しました。

④時代潮流調査:先進地事例や時代潮流を調査し設計に反映しました。(※先進地建築研修を定期的開催)



△出水市野田支所

△出水市高尾野支所

△先進地視察

## 3.設計チームの特徴

「利用者の声に専門チームがきめ細やかに対応します」

①設計実績が豊富な専門チームの編成:庁舎、集会所、福祉施設などの設計実績豊富な管理技術者を中心に、経験豊かな専門スタッフによる体制を編成。創業以来3000を超える設計実績を持つ県内最大手の組織事務所の豊富なノウハウから幅広い提案を行います。

②相互理解を深めるツールの活用:打合せやワークショップでは、3DモデリングソフトやBIMによるCG、スケッチ、模型等を用いて視覚的に分かりやすいプレゼンテーションを行います。

③豊富なワークショップの実績:公共観光施設や民間商業施設、金融店舗などでワークショップを開催した実績により、市民の意見を引き出し、コーディネートするノウハウも蓄積しています。



△ワークショップイメージ



△3Dソフト・模型によるプレゼン

## 4.設計工程を含む事業全体のロードマップ

「見える化で安心できる業務を遂行します」

①設計の見える化:市民も含めたワークショップを段階的にを行い、計画内容を共有し、意見を集約することで市民に愛される施設づくりを実現します。

②課題の見える化:「課題一覧表」を共有することで、漏れのない確実な決定フローで合意形成を図ります。

③コストの見える化:コスト管理士による概算算出を段階的に行い、手戻りのない設計工程を実現します。

Master schedule table showing project phases from basic design to construction across fiscal years 2021, 2022, and 2023.

△事業マスタースケジュール

# 【加治木複合新庁舎】

※この提案がそのまま設計図になるわけではありません



△東側からの鳥瞰イメージ

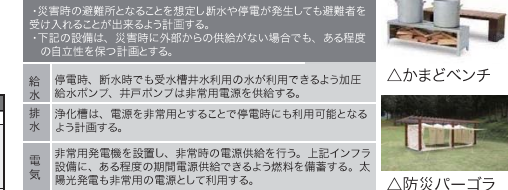
## 【課題1】地域防災拠点としての施設

①避難施設として活用:避難時受け入れ施設として多目的ホール・多目的室を設定し、防災拠点機能と合わせて災害時の市民の安全性をサポートします。

②防災機能の集約:地域振興課、消防団詰所、備蓄倉庫、蓄電・ガス設備などの防災拠点機能を2階に集約配置し、安全かつ施設内で連携がとやすい計画とします。また、防災無線を設けることで、本庁舎とも連携しやすい計画とします。

③防災広場:駐車場、「かじのき広場」、「かじのきの丘」は一体的に防災広場として利用できる計画とします。災害時に活用できる「かまどベンチ」や「防災パーゴラ」を整備し屋外も有効に利用できる計画とします。

④雨水の中水利用:日常的に雨水を貯留し、避難所のトイレの洗浄水を確保します。



△設備計画におけるBCP

## 1.自然エネルギーを活用し、環境負荷の低減に配慮した庁舎

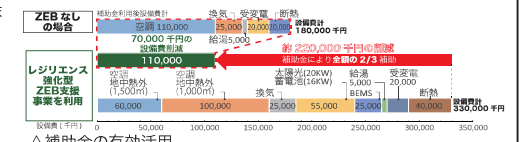
【課題2】環境にやさしく、経済的な施設

### ①ZEB readyの実現:

環境性能の高い庁舎とし、省エネのみで50.8%のエネルギーを削減し、ZEB readyを実現します。ZEB readyの試算

Energy consumption comparison table showing a 50.8% reduction in energy use compared to a standard building.

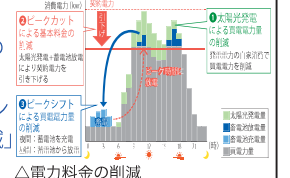
②ZEB支援事業を活用した補助金活用:ZEB readyを達成することで、設備機器に関する費用の2/3が補助金として活用できます。※鹿児島市内でZEB readyの認証及び補助金支給物件の設計・監理実績あり。



△補助金の有効活用

### ③太陽光発電+蓄電池の活用:

太陽電池と蓄電池を活用することで、「買電電力量の削減」「ピークカットによる基本料金の削減」「ピークシフトによる電力料金の削減」を実現します。



△電力料金の削減

### 2.ライフサイクルコストの縮減を図り、経済性に考慮

①盛土量を削減:浸水対策として建物レベルを上げますが、施工方法を工夫することで無駄な掘削・盛土を削減する工法を提案します。



△盛土量削減の提案

②軽くて強い建物の提案:計画地は地盤強度が低いため、建物を軽量化することで基礎にかかる費用を削減し、「軽くて強い建物」を提案します。

③剛性バランスの適正化:T字型の建物を3棟に分割した構造計画とすることで、構造的なひずみを解消し、構造体のサイズダウンを図ります。

【課題3】ユニバーサルデザインを取り入れた、人にやさしい施設

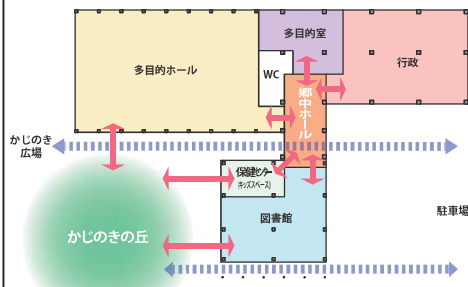
- ① **豊富な実績に基づくUD:**多数の福祉施設やバリアフリー法認定建物等の実績で培ったノウハウを持つ設計チームがより高いレベルのUDを提案します。
- ② **「だれでも」トイレの提案:**多目的トイレと別に、LGBTの方に限らず、誰でも利用できるトイレを計画します。
- ③ **直観的にわかりやすい施設:**初めて訪れる利用者も案内なしに理解できるシンプルな配置・動線計画とします。
- ④ **親しみの持てるサイン計画:**案内だけのサインではなく、素材やデザインを地域特有のサインとし、地域に愛される施設を目指します。

項目	具体的な取組内容
案内誘導	動線の最短化、段差のない計画、見通しの良い平面
サイン	触知案内、非常文字表示(地震・火災)等様々な障がい・状況に応じた計画
音声誘導	受付、エレベーター動線、トイレ等への音声誘導ガイド装置の導入
色彩計画等	明度差の確保、光らない仕上げ材料の選定、弱視・高齢者を考慮した色彩
トイレ等	障がいと行動特性を把握した計画、多目的トイレ設置
車椅子利用者用駐車場	出入口近くに設置
その他	家具・自動販売機・ATMなどの障がい者対応

△ユニバーサルデザイン一覧

【課題4】市民に親しまれ、まちづくりの拠点となる施設

- 1. **市民に開かれた親しみやすい庁舎**
- ① **緑の中の施設:**施設周辺を緑化し、公園の中に佇む施設とすることで、施設に用がなくても訪れたい庁舎を目指します。
- ② **郷中ホールの提案:**全て利用者が利用できる玄関ホールを「郷中ホール」とし、情報発信拠点として多くの市民が情報に触れる空間として計画します。
- ③ **アクティビティの見える化:**外から内部の行動が見られる透明性の高い施設とすることで、都市に開かれた賑わいの中心施設として整備します。
- ④ **中も外もつながる施設:**「郷中ホール」と「かじのきの丘」に複数の機能が隣接することで、利用者の交流を促進します。



△内外の繋がり

2. 市民活動を支え、まちづくりの拠点となる庁舎

- ① **食を通じたコミュニケーション:**多目的室に付属するキッチンを設置し、食を通じた様々な交流や、活動に対応できる施設とします。(キッチンは災害時も機能します。)
- ② **外部との一体的な利用:**「かじのきの丘」に開かれた多目的ホール及び図書館は外部と一体的な利用を可能にすることで、様々な用途に活用できます。



△キッチンイメージ

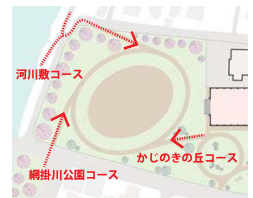
3. 市民の学習や健康促進、子育てを支援するための庁舎

- ① **地域で見守る子育て:**キッズスペースを「かじのきの丘」に面して配置することで、多世代との交流につながり、地域での子育てを促進させる施設を目指します。また、現在ふれあい物産館跡に検討されている「全天候型子ども館」とも端山通りの延長上につなげることで、それぞれの機能を補完しあう計画とします。
- ② **ふらっと立ち寄り図書館:**図書館を主要道路に近い位置に配置することで、登下校途中の学生などがふらっと自由に立ち寄れる学びの環境を整備します。



△図書館外部利用イメージ

- ③ **子供読書活動推進施設:**図書館窓口近くに読み聞かせコーナーを設け、窓口の待ち時間を活用します。隣接する椋鳩十記念館と連携し、子供読書活動促進に寄与します。また、キッズスペースと図書館を隣接させ、ブックスタートの活動も促進します。
- ④ **「かじき健康の森」の提案:**「かじのきの丘」をスタートに敷地内、河川敷をコースとしたランニングコースを設定します。季節の花々が咲き誇るランナーたちの名所となるようなコースを整備し、市民の健康促進に寄与します。



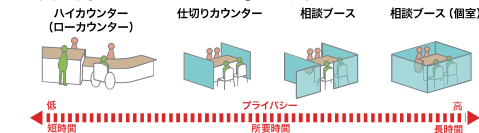
△ランニングコース



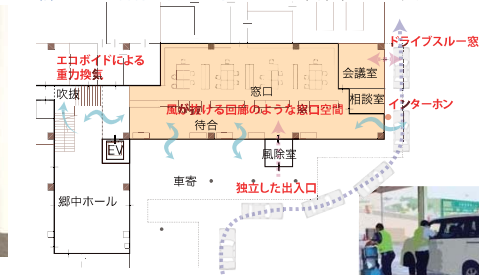
△桜並木イメージ

【課題5】市民サービスの向上を実現する施設

- 1. **窓口サービスの向上による利便性の高い庁舎**
- ① **ワンストップサービスの実現:**市民が多く利用する窓口を1階に集約し、利用者の動線を短縮します。また、総合窓口を設けて、ワンストップサービスで市民の利便性を向上します。
- ② **多様できめ細やかな窓口対応:**カウンターによる対応だけでなく、感染症対策や要望に応じた多様な対応で満足度の高いサービスを実現します。
- ③ **窓口機能は迅速・安全に:**庁舎機能を駐車場に近接して配置し、利用者のスムーズな手続きを可能にします。また、感染症対策のドライブスルー窓口も提案します。
- ④ **ソーシャルディスタンスの確保:**感染症対策として、外気に面した待合空間とします。他用途との動線分離も可能で新しい生活様式にも対応できる計画とします。



△窓口の多様性



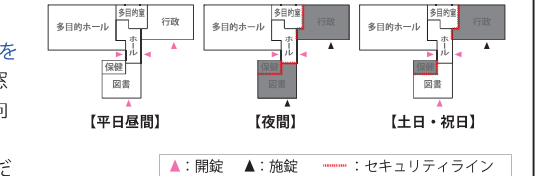
△緊急時のドライブスルー窓口

2. 複合機能の導入による利便性の高い庁舎

- ① **全ての機能が共用のホールでつながり、相互に干渉しあうことで、他世代間の交流が促進されます。**
- ② **共有できるものはすべて共有:**トイレや総合案内、車寄せなどの共用部を全機能で共有し、スペースと設備を最大限利用するコストパフォーマンスの高い計画とします。

【課題6】機能性・効率性の高い施設

- 1. **効率性が高く、機能連携がとりやすい庁舎**
- ① **機能に最適な配置計画:**庁舎・図書館・公民館・体育館それぞれの機能に応じた最適な位置に施設を配置し、それぞれの機能が合理的につながる配置計画を提案します。
- ② **機能に応じた管理が可能な計画:**明快な管理区分で休日や夜間などの施設利用に対応可能な計画とします。



△管理・セキュリティパターン

- ③ **ゾーンを横断した利用の促進:**多目的室を行政機能に隣接させ、会議などにも利用可能にします。その他、図書室での執務、多目的ホールでの職員朝礼などエリアに縛られない横断的な利用を促進します。
- ④ **ICTを活用した施設連携:**本庁舎・蒲生庁舎との連携を図ります。(ICT:防災無線、議会中継、Web会議)

2. 行政組織や市民ニーズの将来的な変化に柔軟に対応できる庁舎

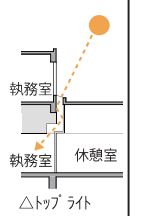
- ① **時代潮流に対応できるプラン:**多目的室と行政機能を隣接させることで必要に応じて機能の拡大・縮小が可能な計画とします。
- ② **スケルトン&インフィル:**将来的な間仕切り変更に対応するためにフレームと乾式間仕切りからなる構造形式を提案します。
- ③ **機能に対して最適な構造計画:**建物の軽量化を図りながら防災拠点機能を満足させるために鉄骨造を提案し、庁舎棟のみ鉄筋コンクリート造を提案します。

	W 木造	S 鉄骨造	RC 鉄筋コンクリート造
将来的な改修のし易さ	○	○	△
I類の強度を実現するコスト	△	○	○
建物重量 (基礎コストに影響)	○	○	△
汎用性 (施工者の特定)	×	○	○
工期 (工期短縮)	○	○	△
防災 (津波対策)	△	△	○

△構造体比較表

3. 快適な執務空間が確保され、職員にとって働きやすい庁舎

- ① **自然光を導入した適切な光環境:**1階執務室はトップライトからの自然光を取り込み、明るさを確保します。タスクアンビエント照明で必要となる必要の照度を確保します。
- ② **コンパクトな職員動線:**執務ゾーンをコンパクトにまとめ、公用駐車場も執務室を隣接させることで、職員の動線を短縮する計画とします。



△トップライト

【特定課題】

1 商店街との連携などまちのにぎわい創出に寄与する機能

「地域全体に波及するかじのきの丘の賑わい」

加治木駅・かもだ通り商店街から伸びる端山通り線の正面に「かじのきの丘」を設け、連続する通りの終点にふさわしいシンボルとします。加治木駅から連なる通りがかもだ通り商店街と直交し、相互に活性化するもう一つのメインストリートとなることを目指します。

「かじのきの丘」は歩車分離により歩行者が安全かつ気軽に立ち寄れる計画とし、フリーマーケットや青空レストラン、また、太鼓踊り大会や商店街で開催される季節ごとのイベントとの連携など、点ではなく、線や面で地域全体の賑わい創出に寄与します。

また、多目的ホールのステージを開放し、屋外ステージとして利用することで、「かじのき広場」と一体的に大規模なイベントが可能スペースとします。



△周辺施設

2 健康づくりに寄与する機能

「まちに開かれた気持ちのいい運動施設」

かじのき広場には網掛川公園から連続する桜並木とプロムナードを設け、散歩やジョギングなどの健康づくり活動を公園と一体的に促進できるよう配慮します。また、健康遊具を広場各所に設け、地域住民に自由に利用していただきます。保健センターは、健康増進に関する相談や指導などに利用可能です。



△健康遊具イメージ

3 周辺の公共施設の有効活用及び相乗効果

「恵まれた周辺を活かし、また活かされる施設とします」

周辺には椋鳩十文学記念館、加治木郷土館、社会福祉協議会など公共施設が多数あり、それらとの連携や有効活用が促進される計画とします。

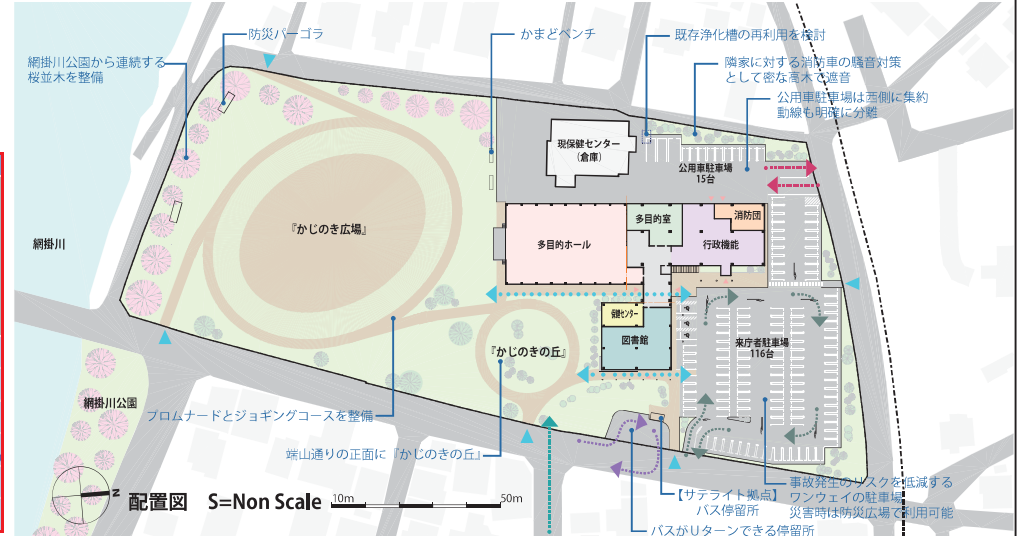
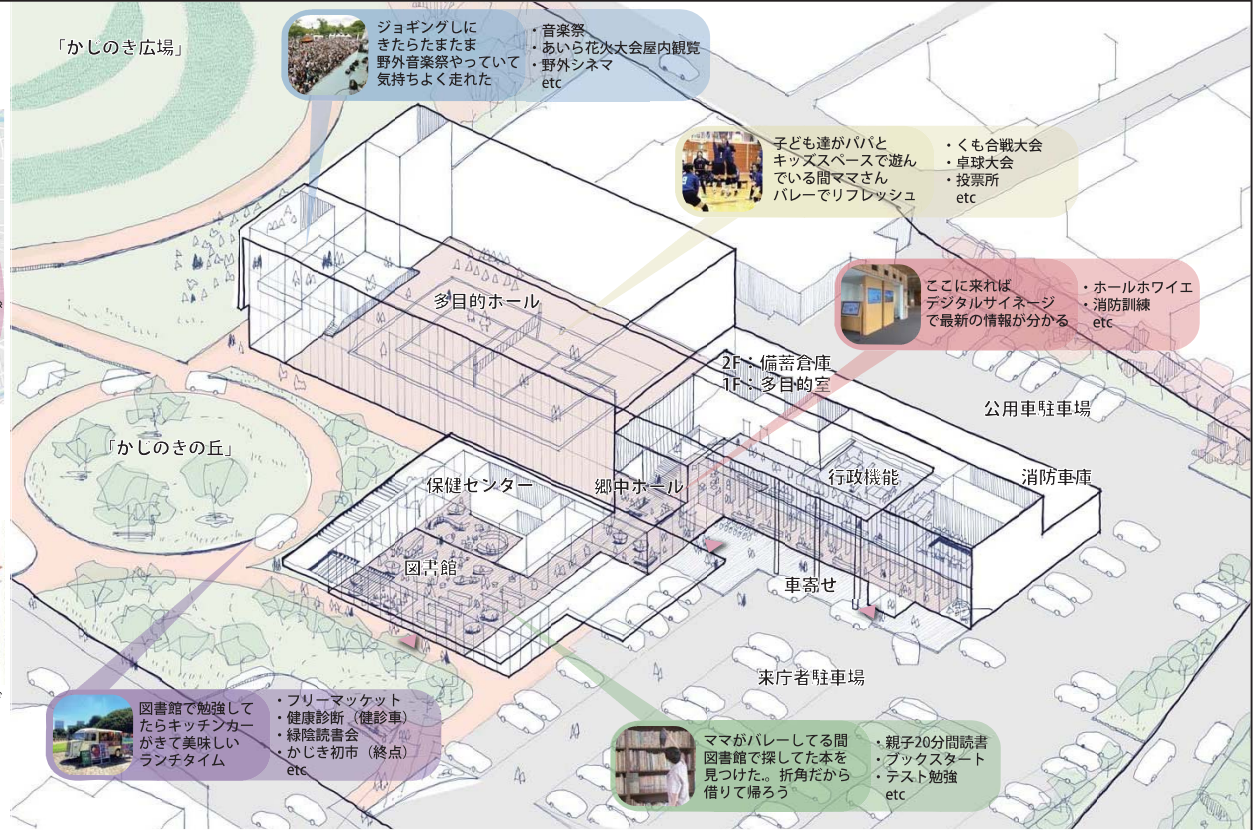
図書館は椋鳩十文学記念館と図書への貸し借りをを行う等して、相互に利用率向上を図ります。また、「郷中ホール」などを施設連携情報発信の場として活用します。

4 限られた敷地の有効活用と適正規模の駐車場

「利用者よし、地域よし、職員よしの三方よしの考え方で最良解を追求します」

工事中も使用する既存庁舎を除いた範囲の中で最も効率良く、また周辺との調和が取れる配置計画を検討します。駐車場は北側に集約し、利用者が迷わずにアクセスできる明快なゾーニングとします。

ケース	A (3階建案)	B (2階建 東西案)	C (2階建 南北案)	D (平屋案)	E (一部2階建T字型案)
[配置比較]					
敷地の有効利用	▲ 空地を広く確保できるが南北が分断される	● 南側に空地を集約	○ 南・東面を連続的に利用可能	× 建築面積が広く空地が狭い	○ 南・東面を連続的に利用可能
近隣住戸への配慮	× 高さがあり東側へ圧迫感	× 西側・東側住戸へ圧迫感	▲ 東西隣家からの視線あり	○ 高さを抑え圧迫感軽減	● 高さを抑えた上部ボリュームを分割することで、より圧迫感を抑える
音環境	○ 線路からの十分な遮断あり	× 線路近くで騒音の懸念	× 線路近くで騒音の懸念	○ 線路からの十分な遮断あり	○ 線路からの十分な遮断あり
光環境	● 南に広く面し十分な採光	● 南に広く面し十分な採光	× 多目的ホールがある南側からの採光が遮られる	× 多目的ホールがある南側からの採光が一部遮られる	▲ 多目的ホールがある南側からの採光が一部遮られる(トップライト等で対応)
地域への開放性	○ まちとの距離は近いが接する面が狭い	▲ まちとの距離は近いが接する面が広い	▲ 道路からのセットバックが大きい	○ まちとの距離が近く広く面する	● まちとの距離を広く保ち接する面も広く確保
通りからの各機能の視認性	▲ 建物短辺のみが見える(3F)	× 建物短辺のみが見える(2F)	● 建物長辺が全て視認できる	▲ 道路面以外の3面が視認しづらい	○ 道路に広く面し視認性が高い





△端山通りからみる外観

【特定課題】

5 多目的スペースなどの交流機能

「すべての機能とリンクさせ、価値を付与します」  
 多目的室は、全ての施設に付属して機能するものであり、様々な活動を支援できる仕様とします。例えばキッチンを隣接させるなどして要請に対して応えることができる施設とします。

6 学びや集いの場として若い世代や高齢者などが世代を超えて交流できる地域拠点機能

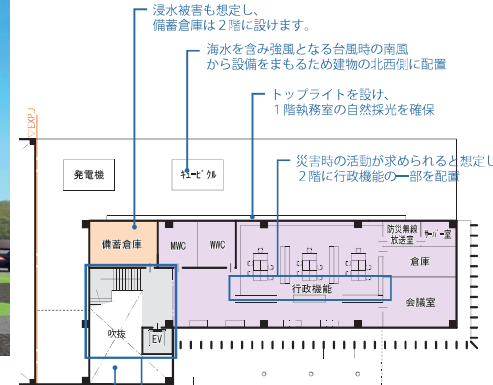
「市民が広く集える場と交わる仕掛けを提案します」  
 施設の各所に共有スペースを設け、世代も目的も異なる各機能の利用者が交わる機会を演出します。  
 全ての機能に面する郷中ホールはそれぞれの機能から拡張されるスペースとして利用でき、そこを通る利用者は意図せず、属性の異なる方々と触れあう事ができます。

7 市民ニーズに応じた柔軟な運用

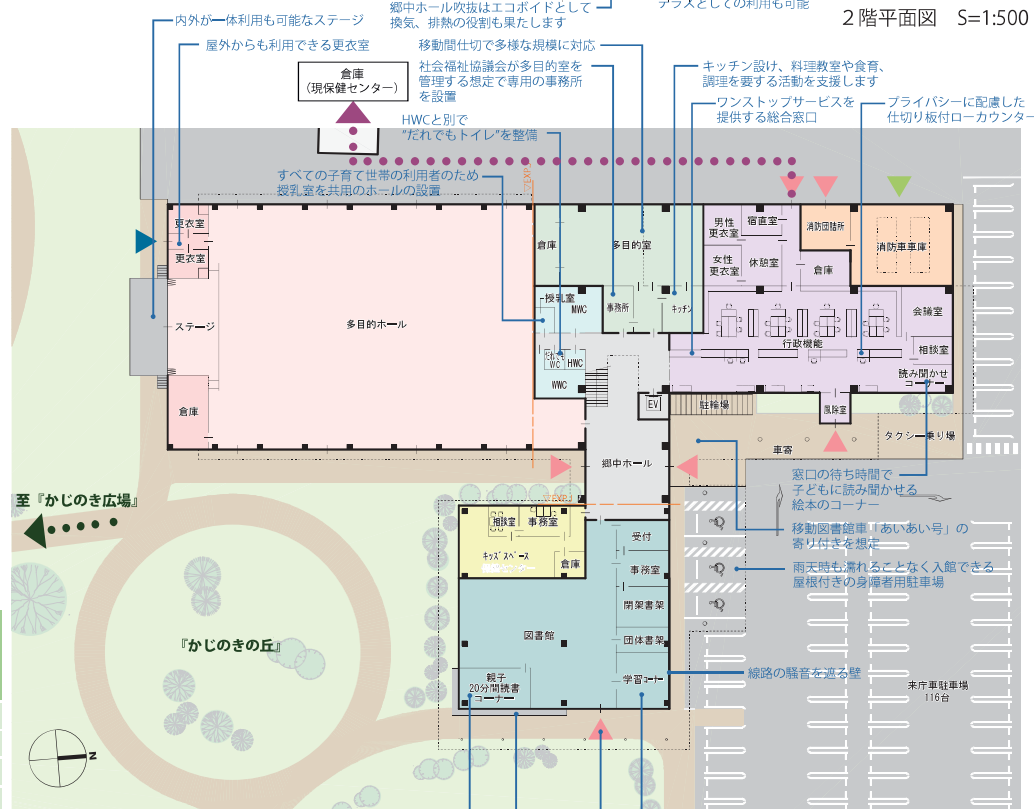
「閉庁時も広く利用できる庁舎とします」  
 ホールやトイレ等を全ての機能で共有することで面積効率を向上させ、管理区分を明確にし、時間帯の異なる各機能をそれぞれ運用可能な計画とします。

	計画面積			基本計画 想定延床面積
	専有面積	専有面積による 換分比率	共用面積 (郷中ホール)	
行政機能	673.60㎡	29.68%	85.97㎡	759.57㎡
消防	132.86㎡	5.86%	16.97㎡	149.83㎡
多目的ホール	886.60㎡	39.07%	113.17㎡	999.77㎡
図書館	310.36㎡	13.68%	39.62㎡	349.98㎡
保健センター	88.04㎡	3.88%	11.24㎡	99.28㎡
多目的室	177.70㎡	7.83%	22.68㎡	200.38㎡
合計	2269.16㎡	100%	289.65㎡	2558.81㎡

△面積表



2階平面図 S=1:500



1階平面図 S=1:500

親子20分間読書を樟鳩十文学記念館と連携して推奨していきます  
 パーゴラ状の屋根の下、木漏れ日のような光の中読書を楽しむ加治木石のベンチ  
 広場や線路からも隔離をとり、緑に囲まれた静けさの中落ち着いた雰囲気での学習できる学習コーナー  
 道路側にも出入口を設け、気軽に立ち寄れる図書館

8 子どもたちの学びの場としての機能

「学習意欲を掻き立てる気軽に立ち寄れる施設とします」

3つの小学校区を中心であり、高等学校2校とも近接する場所として、地域の子供たちが本に触れる機会を増やし、自ら学習する図書館を目指します。  
 道路に面して図書館を配置し、気軽に立ち寄れるよう配慮します。



学習コーナーは「かじのき広場」に近接させ、落ち着いた雰囲気での学習ができる空間とします。また、線路からの離隔も十分に確保するとともに北面を壁とすることで騒音についても配慮した計画とします。  
 樟鳩十先生が提唱して始まった「親子20分間読書」のコーナーを設け、樟鳩十文学記念館の「自由の館」から図書を定期的に入れ替える等して親子で本に触れ、自ら学ぶ姿勢を育みます。



△親子20分間読書イメージ △樟鳩十文学記念館「自由の館」

9 子育て世代のニーズを反映できる子育て支援機能

「地域全体での子育て」を発信する拠点とします

保健センターはキッズスペースを設け、郷中ホールを介して土日でも利用できる計画とします。キッズスペースは図書館を隣接させ、読み聞かせボランティア活動やブックスタートなど、図書館機能との連携を図ります。また、「かじのきの丘」にも面することで屋外で元気に遊ぶことも可能です。授乳室はすべての機能での利用を考慮し、施設中央の共用部に配置します。



△ブックスタートイメージ △キッズスペースイメージ

α その他提案

「加治木の伝統と文化を誇る庁舎とします」

加治木の地場材である加治木石を使用し、地域の原風景となる施設を目指します。



△加治木石ベンチ